

コース内容 消化器内科

診療科の紹介

当院は日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会認定施設として登録されております。これら学会の資格を取得するための研修期間として当院は条件を満たしています。また、慶應義塾大学医学部消化器内科の関連施設であります。

研修責任者

吉田 英雄 （日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器学会専門医
医学博士）

指導医

栗田 聡 （医学博士）

中嶋 緑郎

他、慶應義塾大学医学部消化器内科より各分野スタッフが、非常勤消化器内科医師として当院に派遣されており、内視鏡の先端手技から各種消化器疾患について学ぶことが出来ます。

研修内容

初期研修医

初期研修の2年間は科、分野を問わず幅広く学んで頂こうと当院では考えております。その一環として消化器内科も研修して頂く予定です。腹痛の見方、診断へのアプローチ、治療の基本を学んで頂く予定です。指導医と一緒に病態を考えていきます。プレゼンテーションに慣れて頂く目的で、消化器内科、外科症例カンファレンスでは自分の症例について発表して頂きます。また、次年度も消化器内科に研修を希望される場合は必要な手技、内視鏡見学とその介助をして頂き、消化器独自の手技の実際を経験して頂きます。

後期研修医

化学療法を必要とする消化器癌、上下部消化管出血、潰瘍性大腸炎、自己免疫性肝炎など幅広く消化器疾患を当院では扱っており、2年間の研修を積んできて専門性を身に付ける時期に来た先生には、これらの疾患の経験を積んで頂きます。希望があれば上部内視鏡を通年もしくは半年間研修して頂くことも可能です。慶應病院で行われる消化器内科カンファレンスの参加も可能です。さらに次年次も消化器内科を選択された場合には、基本的には独り立ちをしてもらい、主治医となって研修して頂きます。将来消化器内科専門医を目指す先生は更に下部内視鏡、腹部エコーの訓練も行います。

内視鏡実績

内視鏡件数は毎月合計 430 件ほどです。上部内視鏡、下部内視鏡、E R C Pを行っています。内視鏡機器は最先端を揃えるよう心がけ、超音波内視鏡、N B I、拡大内視鏡を常備しています。スクリーニングはもちろんのこと治療内視鏡（緊急の止血から E V L、E M R、E S D、E S Tまで）も幅広く手がけています。

診療実績

病床数は消化器内科で 4 0 床あり、入院延べ数も毎月 1 0 0 0 人以上ですので、十分な症例を経験できると思われれます。

冒頭にも述べましたが、当院の研修は日本消化器病学会、日本内視鏡学会の指定する所の研修になります。また、将来更に日本の先端医療、研究に従事したいと考えられた先生には慶應義塾大学病院消化器内科の入局を当院からも紹介させていただきます。